

執筆者紹介

序章

吉崎 知典 (よしざき とものり)

防衛省防衛研究所理論研究部長

慶應義塾大学大学院修士課程を修了し、1987年に防衛研究所に入所。ロンドン大学キングズ校戦争研究学部および米ハドソン研究所の客員研究員を経て、2011年9月より現職。現在、東京外国語大学大学院・平和構築・紛争予防講座 (Peace and Conflict Studies) 客員講師。専門は戦略論、紛争研究、同盟研究。

主な著作に『冷戦後のNATO』(広瀬佳一と共編、ミネルヴァ書房、2012年)、『平和構築における治安部門改革』(上杉勇司・藤重博美と共編、国際書院、2012年)、『NSC 国家安全保障会議の研究』(共著、彩流社、2009年)、『国家建設と民軍関係』(共著、国際書院、2008年)他がある。共訳書にジョン・ベイリス他編『戦略論』(勁草書房、2012年)、ウィリアムソン・マーレー他編『戦略の形成』(中央公論新社、2007年)がある。

第1章

野中 郁次郎 (のなか いくじろう)

一橋大学名誉教授

早稲田大学政治経済学部卒。富士電機製造(株)勤務ののち、カリフォルニア大学経営大学院(バークレー校)にて博士号(Ph.D.)を取得。南山大学経営学部教授、防衛大学校教授、一橋大学商学部産業経営研究所長、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科長、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授を経て現職。カリフォルニア大学(バークレー校)経営大学院ゼロックス知識学特別名誉教授、クレアモント大学大学院ドラッカー・スクール名誉スカラー、早稲田大学特命教授を併任。

主な著書に『組織と市場:組織の環境適合理論』(千倉書房、1974、日経・経済図書文化賞)、『日米企業の経営比較』(共著、日本経済新聞社、1983、組織学会

賞)、『失敗の本質』(共著、ダイヤモンド社、1984)、『知識創造の経営』(日本経済新聞社、1990、経営科学文献賞)、『アメリカ海兵隊—非営利組織の自己革新』(中公新書、1995)、『The Knowledge-Creating Company』(共著、Oxford University Press、1995、米国出版社協会経営書部門「ベスト・ブック・オブ・ザ・イヤー」賞)、『イノベーションの本質』(共著、日経BP社、2004年)、『流れを経営する』(共著、東洋経済新報社、2010年)、『日本企業にいま大切なこと』(共著、PHP研究所、2011年)、『知識創造経営のプリンシプル』(共著、東洋経済新報社、2012年)など。

知識創造理論を世界に広め、ナレッジマネジメントの権威として海外での講演も多数。2007年8月には米国で最も権威のある米経営学会(the Academy of Management)のインターナショナル部門エミネントスカラーに選出。また2008年5月のウォールストリートジャーナルでは「最も影響力のあるビジネス思想家トップ20」に選ばれる。

2002年に紫綬褒章を受章。2010年11月には、その長年にわたる功績に対し瑞宝中綬章が授与された。

第2章

マイケル・クラーク (Michael Clarke)

英国王立統合軍防衛安全保障問題研究所(RUSI)所長、ブルッキングス研究所客員研究員、王立国際問題研究所フェロー

マンチェスター大学、ニューカッスル・アポン・タイン大学等を経て、1990年よりロンドン大学キングスカレッジ防衛研究センター長に就任。2001年から2005年まで同国際政治研究所所長。この間1995年に防衛学の教授に就任。2004年から社会科学・公共政策学部長、2005年から副学長補兼研究推進部長を歴任後、2007年より現職。

1997年から英国議会下院国防委員会の専門アドバイザーを務め、2004年に国連軍縮諮問委員会の英国側委員、2009年に国家安全保障委員会(首相の諮問会議)委員、2010年に戦略諮問グループ(参謀総長の諮問会議)委員等を歴任。加えて、

英国貿易投資と国防問題に関する戦略諮問パネルの委員も務める。

主な著作に *The Afghan Papers: Committing Britain to War in Helmand 2005-06* (London: RUSI/Routledge, 2001)、“United Kingdom: Strategic Posture Review,” *World Politics Review* (November 2011)、“Does War Have a Future?”, in Lindley-French and Boyar eds., *The Oxford Handbook of War* (Oxford: Oxford University Press, 2012) など。

第3章

ウィリアムソン・マーレー (Williamson Murray)

米国オハイオ州立大学名誉教授、米国海軍大学研究員

イエール大学卒。米空軍に奉職後、1975年イエール大学大学院にて博士号 (Ph. D.) 取得。1977年よりオハイオ州立大学で軍事外交史の教授として教鞭をとる。1995年より現職。この間、米軍の各教育機関より講師として招聘されたほか、ロンドン大学客員教授、海軍戦争大学校研究員、海兵隊大学名誉教授、陸軍大学校教授等を歴任。また国防分析研究所 (IDA) でコンサルタントとしてイラク動向分析プロジェクトに従事。

これまで数多くの著書、論文等を発表。主な著作に *The Dynamics of Military Revolution, 1300-2050* (Cambridge University Press, 2001), *Conflicting Currents: Japan and the United States* (Praeger, 2009) などがある。2011年にはケンブリッジ大学出版より *The Shaping of Grand Strategy, Policy, Diplomacy, and War* (co-ed. with Richard Sinnreich and James Lacey) など著書を3冊、そして今年 *Hybrid Warfare* (Cambridge University Press, 2012, with Peter Mansoor) を出版。歴史を通して、軍事の現代的意味を考察し、*A War To Be Won: Fighting the Second World War* (Harvard University Press, 2000, co-authored with Allan Millett) は主要紙等に書評が載せられる等大きな反響を呼んだ。*The Cambridge History of War* (Cambridge University Press, ed. by Geoffrey Parker) の執筆者の一人でもあり、*The Iran-Iraq War, 1980-1988* (with Kevin Woods) を上梓予定。2011年度には米海軍大学校の研究員としてイラン・イラク戦争を題材に研究教育活動を行った。

第4章

山内 康英 (やまのうち やすひで)

東京大学情報学環客員研究員。多摩大学情報社会学研究所教授・所長代理。

東京大学教養学部卒。1992年、東京大学大学院にて博士号（学術-国際関係論）を取得。財団法人世界平和研究所研究員、国際大学グローバルコミュニケーションセンター教授を経て現職。

主な著作に「ポスト開発主義の政策決定と社会的知識マネジメント」野中郁次郎他編著『知識国家論』（東洋経済新報社、2003年3月）、「ネット社会のリスクと脅威」『ネット戦争：サイバー空間の国際秩序』（NTT出版、2007年）、「Three Globalizing Phases of World System and Modernity”, in George Modelski, Tessaleno Devezas and William R. Thompson (eds.), *Globalization as Evolutionary Process: Modeling Global Change*, (Oxon: Routledge, 2008 with Kumon Shumpei) 『ネットの高い壁：新たな国境紛争と文化衝突』国際社会経済研究所監修（NTT出版、2009年）など。国内外で情報、知識マネジメント等の観点から多数の論文を発表。

第5章

ポール・コーニッシュ (Paul Cornish)

バース大学国際安全保障学部教授

ケンブリッジ大学大学院修了 (Ph.D.)。1983年から1989年まで英陸軍、1991年から1993年まで英外務省に奉職後、チャタムハウス、統合参謀本部大学、ケンブリッジ大学を経て、2002年ロンドン大学キングスカレッジ防衛研究センター長に就任。2005年からチャタムハウス国際安全保障プログラム長を務めた後、2011年より現職。

主な著作に *Strategic Communications and National Strategy* (London: Chatham House, 2011, with Julian Lindley-French and Claire Yorke); ‘Smart muddling through: rethinking UK national strategy beyond Afghanistan’, *International Affairs* (88/2, March 2012, with Andrew Dorman); ‘The Changing Relationship between

Society and Armed Forces' in Julian Lindley-French and Yves Boyer (eds), *The Oxford Handbook on War* (Oxford University Press, 2012) など。

第6章

エドワード N. ルトワック (Edward N. Luttwak)

戦略国際問題研究所 (CSIS) 上席研究員

1975年にジョンズ・ホプキンス大学にて博士号 (Ph.D.) を取得。コンサルタント等として国防省に勤務。その後、国家安全保障会議やホワイトハウスのスタッフ等を歴任。米軍の戦争大学や高級幹部課程や世界各国の高級幹部学校に講師として招聘される。*Strategy: the logic of war and peace* (Belknap Press, 1987, revised ed., 2002) を含めその著書は、日本語、中国語、韓国語、ロシア語、アラビア語、トルコ語など20か国語に翻訳されて世界中で読まれている。

主な著作に *The Grand Strategy of the Byzantine Empire* (Belknap Press, 2009) など。邦訳書に『クーデター入門——その攻防の技術』(徳間書店、1970年)、『アメリカンドリームを終焉——世界経済戦争の新戦略』(飛鳥新社、1994年)、『ターボ資本主義——市場経済の光と闇』(TBSブリタニカ、1999年) など。

第7章

齋藤 隆 (さいとう たかし)

日立製作所顧問

神奈川県立横須賀高校卒業、防衛大学校14期。海上自衛隊に入隊後、潜水艦「はましお」艦長、潜水艦「せとしお」艦長、米国海軍大学卒、第22護衛隊司令、海上幕僚監部防衛部長、舞鶴地方総監、横須賀地方総監等を歴任。2005年第27代海上幕僚長、2006年第2代統合幕僚長。2009年退官、防衛省顧問。2010年より現職。

退官後、内閣官房「新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会」専門委員、防衛省「防衛生産・技術基盤研究会」委員等を歴任。

第8章

イ・サンジン (Sangjin Lee)

韓国国防大学教授

ソウル大学学士、サンフランシスコ大学修士 (MBA)、ウイスコンシン・マディソン大学博士。2009年より韓国国防大学において教鞭をとり、数量分析技術、兵站、防衛産業政策および防衛力改革イニシアチブに関する研究論文を発表している。2006年から2008年まで韓国防衛計画推進評議会、韓国防衛事業庁委員、2009年から2010年まで防衛調達に関する大統領諮問委員会委員を務めた。最近、防衛力管理調達改革に関して韓国国防部から諮問を受けている。

第9章

アンドリュー・デービス (Andrew Davies)

オーストラリア戦略政策研究所 (ASPI) 研究部長

メルボルン大学、オーストラリア国立大学、オーストラリア国防省を経て2006年にオーストラリア戦略政策研究所 (ASPI) に入所。国防省では12年間、運用能力や情報の分析に関する業務に従事した。装備品の選択、オーストラリア軍の政策決定や運用能力、国防産業等について多くの著作がある。現在の研究関心は、将来潜水艦計画や統合打撃戦闘機 (JSF) 計画で、これらに関する研究は国内外における同計画への理解に大きく貢献している。

主な著作に *Mind the gap: getting serious about submarines-Strategic Insights*, 57 (ASPI, 2012), *Delivering the goods: the ADF's future battlefield airlifter-Policy Analysis* (ASPI, 2012) など。

第10章

ロバート・ダルシュ (Robert Dalsjö)

スウェーデン国防研究所 (FOI) 副ディレクター

2006年ロンドン大学キングスカレッジにて博士号 (Ph.D.) 取得。1989年までスウェーデン国防軍に奉職。海兵隊予備役 (大尉) 編入後 FOI に勤務。1990年より

現職。現在、国防省の上級顧問として主に国防政策、国防改革について助言をしている。また英国国際戦略研究所（IISS）およびスウェーデン戦争科学学会のメンバーでもある。

これまで、スウェーデンの国防・安全保障政策、平和支援活動、冷戦史、NATOの拡大政策、軍縮・武器管理等の研究に従事し、主な著書に *Life-line Lost: The Rise and Fall of 'neutral' Sweden's Secret Reserve Option of Wartime Help from the West* (Stockholm: Santerus Academic Press Sweden, 2006) など。

第11章

アルン・クマル・シン (Arun Kmar Singh)

戦略研究家

1967年インド国防大学卒。元インド海軍東部司令部司令官。インド海軍中將として、インド沿岸警備隊長官を務め、パキスタンとの間で2005年にホットライン協定に調印。日本、韓国およびモルディブの沿岸警備隊との間で行われた共同演習を指揮。2004年12月26日のスマトラ沖津波に際し救援活動を指揮。2007年退官。様々なシンクタンクのメンバーであり、海洋、核、国際関係等に関する発言、これらの記事は国際的に高い評価を受けている。また国内外から多数の会議、講演の招聘経験がある。

主な著作に“Enhance Strategic Calculations”, *Strategic Affairs*, Feb 2008, “Is war around the corner?” *Indian Defence Review*, Oct-Dec 2009, “Crystal Ball Gaze - Suitable Aircraft Carrier for Indian Navy”, *Force*, 17 Feb 2010 など。

第12章

高橋 杉雄 (たかはし すぎお)

防衛省防衛研究所主任研究官 兼 防衛省防衛政策局防衛政策課戦略企画室戦略環境分析班長

早稲田大学政治経済学研究課程修了（政治学修士）。2006年、ジョージワシントン大学コロビアンスクール政治学大学院修了（M.A. in Political Science）。

1997年4月より防衛庁防衛研究所に勤務、1998年9月から2001年9月まで防衛庁防衛局防衛政策課研究室兼務、2007年10月から防衛省防衛政策局防衛政策課戦略企画室兼務。2007年に防衛研究所主任研究官、2009年4月より現職。

主な研究実績として ‘Transformation of Roles, Missions, and Capabilities in the Japan-U.S. Alliance,’ in Yuki Tatsumi, ed., *Strategic Yet Strained* (Washington, D.C.: Henry L. Stimson Center, 2008)、 「核兵器を巡る諸問題と日本の安全保障—NPR・新START体制、「核兵器のない世界」、拡大抑止—」 『海外事情』 第58巻 第7・8号 (2010年7月) 30-51頁、 など。